

般若波羅蜜多心經

國大徳三藏、沙門、法成譯

是クノ如ク、我、聞ク。

このように、私にも、聞こえねばならぬ。

一時、薄伽梵。王舎城、鷲峯山中ニ、住シマセリ。大苾芻衆ト、【及ビ、諸々ノ、菩薩、摩訶薩ト】俱ナリキ。

もったいなくも、ほとけが、争覇の城都、ラージャグリフ府中、すなわち、きみがみちみやこに、自から、お出ましになられるということがあった。はたして、グリドラクト山上、すなわち、はげたかだまりのおかに於てでは、しかも、パルヴァタ、すなわち、「金脈」ご一代を、あえて、わたらせられますばかりでもあったが、そのような時でさえ、絶大の、修道会のことは、決して、お忘れになっていたのではない。

爾ノ時、世尊ハ、甚深明了ノ、三摩地タル、法ノ異門ニ、等入シタマウ。復タ、爾カル時ニ於テ、觀自在菩薩、摩訶薩ハ、深ク、般若波羅蜜多ヲ、行ジタマエリ。時ニ、五蘊ノ體性ハ、悉ク、是レ、空タリト、觀察シ、照見シタマウ。

はたして、みほとけにおかせられては、いましも、「探幽的機知」とこそ、名の立つべき、悟得體そのものに対しては、ねんごろに、ご交感ならせておわせるわけであるが、かかる、時頃下とてこれありしも、また、うるう、すなわち、仁潤姐【アールヤー】そのものとはいはずべき、啓祐仁、すなわち、「かんのん」にして、菩薩、すなわち、仁在人とでもあられます、大英概にあっては、しばらく、深層的なる、「ゆかしことのついでのはからいということ」に於て、あえて、行歴涯そのものにと、ゆきなりに、ご実況はたしあられつつ、しかも、このように、五支の、諸蘊幹に就き、もはや、本分格式の虚無的たるべくおろう者たちをこそ、ついで、ご実践あそばすのであった。

時ニ、具壽、舍利子ハ、佛ナル威力ヲ、承ケ、聖者、觀自在菩薩、摩訶薩ニ、白ウシテ、曰サク。

さて、社命人、シャーリプトラ、すなわち、恩詔子も、また、けだし、「ぶつだ」、すなわち、覚英仁たりし、御位勢を、帯しつつ、はたして、仁愛を背にしたる励導主、すなわち、「かんぜおん」なる、菩薩、すなわち、仁存人ご一代をこそ通して、かくいうところにと、ご弁証ならせられたり。

若シ、善男子ニシテ、甚深ナル、般若波羅蜜多ヲ、修行セント、欲スル者ハ、復タ、當サニ、云何ガ、修學スベキヤト。

およそ、誰か、世祖たるべきにして、しかも、探幽的場、すなわち、「ゆかしことのほかのはかどりということ」に於て、あまつさえ、行歴涯を通し、履行せんとするのが、これ、至情たらん公達は、どうでも、また、試演せられあるべき存在とは云えましような。

是クノ語ヲ、作スコト已ニシテ、觀自在菩薩、摩訶薩ハ、具壽、舍利子ニ、答エテ、言ワク。

このように、けだし、弁証なっていることがらに於てこそ、また、仁篤なるべくあろう者らを背にしたる励導主、すなわち、「かんぜおん」にして、菩薩、すなわち、仁在人たるべき、大要訣が、しばらく、禧寿人、シャーリプトラ、すなわち、恩騰子ご一代を通して、おもむろに、これこのこととて、ご弁済あらせられたり。

若シ、善男子、及ビ、善女人ニシテ、甚深タル、般若波羅蜜多ヲ、修行セント欲スル者、彼ハ、應サニ、是クノ如ク、五蘊ノ體性ハ、皆ナ、空ナリト、觀察スベシ。

およそ、誰でも、シャーリプトラ先生、あるいは、世祖とも、あるいは、世母ともおわさんほどの、公達は、すべからく、深層的なる、「ゆかしことのついでのはからいということ」に於て、けだし、行歴涯そのものを通してではあるが、履行せんとす

るのが、まさに、情実なるとてもあられるところでありましょう。

そのようなことによっては、すでに、このようにと、与かろうほどに、おらねばならぬのも、また、即興せしめらるべきことでなければなりません。

すなわち、やはり、五科の、諸堆軀としてでこそ、いずれ、諸々の、自分形式の虚無性たるべくおろう者たちも、ようやく、そこに、よそえ看れるわけであります。

色ハ、即チ、是レ、空ナリ。空ハ、即チ、是レ、色ナリ。色ハ、空ニ異ナラズ。空ハ、色ニ異ナラズ。是クノ如ク、受想行識モ、亦タ、復タ、皆ナ、空タリ。

はたして、形象〔英語シェイプ・和語うるみ〕としておったのが、それ、「架空的ならざるをえぬということ」であったが、また、「架空性ということ」のこともであるのが、これ、型色〔英語ビジョン・和語あやみ〕である。しかして、肖像〔英語イメージ・和語うるみ〕の方からは、格別にとおるべきが、「虚無的たらざるをえぬということ」であるわけでもなく、また、「虚無性ということ」の方からも、別段とてあるべきが、式彩〔英語パターン・和語あやみ〕であるわけではない。

もはや、このようにともおらねばならぬのが、わずかに、「受信涯をその感悟境としておる枢機らによる諸実験」としては、これ、ひそかに、与かることもできようはずの、すなわち、「架空的ならざるをえぬということ」でなければならぬ。

是クノ故ニ、舍利子。一切ノ法ハ、空ノ性ニシテ、相無ク、生ズルコト無ク、滅スルコト無ク、垢無キモ垢ヲ離シ、減ルコト無ク、増スコト無カラシ。

このように、シャーリプトラ様、けだし、なにもかもが法理なるべきところとはあそばれましょうが、つとに、「架空性ということ」のことにはあらねばならなかったところも、また、諸々の、表徴能がたになければなりません。はたして、未だ、出在ならずにはいるが、内塞ならずにもおり、また、汚れ無き者らにさえ、個特には、染むこともなく、負損ならずにはいるが、重盈ならずにもいませる。

舍利子。是クノ故ニ、爾カル時、空性ノ中ニ、色ノ、受トテ無キモ、想トテ無キモ、行トテ無キモ、亦タ、有識トテ無キモ、無カリキ。

はたせるかな、シャーリプトラ様、「虚無的ならざるをえぬということ」に於てでさえ、けだし、形象そのことは、受感涯としてないわけでも、いずれ、また、共感境のことでないわけでも、諸々の、機微たちとしてないわけでも、即験のことでないわけではないのであります

眼ノ、耳トテ無キハ無ク、鼻ノ、舌トテ無キモ無ク、身ノ、意トテ無クハ無キナリ。

しかれば、眼目そのことが、耳上としてなかったわけでもなく、更には、薫然そのことが、味討涯のことでないわけでもなく、体位自身が、心象としてないわけではないのであり、

色ノ、聲トテ無キモ無ク、香ノ、味トテ無キハ無ク、觸ノ、法トテ無クモ無キナリ。

しかも、また、型色そのことが、言声のことでないわけでもなく、更には、香氣そのことが、情味としてないわけでもなく、抵触せられねばならぬものごとが、これ、理法のことでないわけではないのである。

眼界ノ、乃至、意識界トテ無キハ無ク、無明ノ、無明ナル盡トテ無キモ無ク、乃至、老死モ、亦タ、老死ナル盡トテ無クハ無キナリ。

しかして、目下なる理脈自身が、いずれ、心緒による当覚なる素脈としてなからんわけではないのでさえあり、すでに、未感涯のこととてあったところが、これ、非感涯なる衰能自身でなかったわけでもないのでさえはある。乃至、老境涯の滅止そのことまでもが、しかも、老熟涯の敗滅なる衰勢としてないわけではないのである。

苦集滅道ノ、智トテ無ク、得トテ無キモ、【亦タ、不得トテ無クモ】無キナリ。是クノ故ニ、舍利子。無所得タリシヲモ以ッテノ故ニ、諸々ノ、菩薩衆ハ、般若

波羅蜜多ニ、依止シテ、心ニ障礙無ク、恐怖ノ有ルコト無クシテ、顛倒ヲ、超過シ、究竟ジテ、涅槃タルベケン。

いずれ、諸々の、憂苦なる歴次をば閉系となすべき道理たち自身のこととはあろうところが、もはや、直截そのことでないわけでも、やがて、精成境そのものがでないわけでもないのではあろうが、なおし、そのようなことの方からも、また、シャーリプトラ様、けだし、それ、既成境ではなかりけることから、あえて、諸々の、菩薩すなわち、仁存人たちの、事に預かるべく、いよいよ、「ゆかしことのほかのはかどりということ」に頼りまいらせ、お遊び下されるのが、はたして、諸心知る掩蓋能すなわち、「こころのおんたけ」ご一代におわします。

すでに、志識なっている者らによる掩填さえ無かりけることから、そもそも、恐怖あること無くあらせられたのも、また、諸徒塵を超越できていませる御方、すなわち、内止なることもできたまう懐風能、すなわち、「ねはんびと」にあそばす。

・

三世ノ、一切ノ、諸佛モ、亦タ、皆ナ、般若波羅蜜多ニ、依リタマウガ故ニ、無上ノ、正等菩提ヲ、證得シタマエリ。

三箇の、方程をば、つとに、ご実施できようばかりとあらせる、諸々の、サルヴァブダ、すなわち、誰もかれもが自覚せられています御方、すなわち、「おおみかみ」がたにおかれても、ひそかに、「ゆかしことのついでのはからいということ」にと、おん頼みいりはたされましたればこそ、なおし、やんごとなく、すなわち、未央たるべくはおろうばかりの、サンミヤクサンボーディ、すなわち、ひのものとくに、すなわち、正一履道場そのものに就いてでさえ、はれて、鎮座権現あそばせこれだけようはずのわけである。

舍利子。是クノ故ニ、當サニ、知ルベシ。般若波羅蜜多、大蜜咒トハ、是レ、大明咒ナリ。是レ、無上ノ咒タリ。是レ、無等タルニシテ等シナル咒ナリ。能ク、一切ノ、諸苦ヲ、除クノ咒ナルモ、眞実ニハ、無倒タリ。

【故ニ、知ルベシ。般若波羅蜜多ハ、是レ、秘密ノ咒タラント。】即チ、般若波羅蜜多ヲ、咒ニト、説イテ、曰ワク。

波羅蜜多ニ、依止シテ、心ニ障礙無ク、恐怖ノ有ルコト無クシテ、顛倒ヲ、超過シ、究竟ジテ、涅槃タルベケン。

いずれ、諸々の、憂苦なる歴次をば閉系となすべき道理たち自身のこととはあろうところが、もはや、直截そのことでないわけでも、やがて、精成境そのものがでないわけでもないのではあろうが、なおし、そのようなことの方からも、また、シャーリプトラ様、けだし、それ、既成境ではなかりけることから、あえて、諸々の、菩薩すなわち、仁存人たちの、事に預かるべく、いよいよ、「ゆかしことのほかのはかどりということ」に頼りまいらせ、お遊び下されるのが、はたして、諸心知なる掩蓋能すなわち、「こころのおんたけ」ご一代におわします。

すでに、志識なっている者らによる掩填さえ無かりけることから、そもそも、恐怖あること無くあらせられたのも、また、諸徒塵を超越できていませる御方、すなわち、内止なることもできたまう懐風能、すなわち、「ねはんびと」にあそばす。

三世ノ、一切ノ、諸佛モ、亦タ、皆ナ、般若波羅蜜多ニ、依リタマウガ故ニ、無上ノ、正等菩提ヲ、證得シタマエリ。

三箇の、方程をば、つとに、ご実施できようばかりとあらせる、諸々の、サルヴァブダ、すなわち、誰もかれもが自覚せられています御方、すなわち、「おおみかみ」がたにおかれても、ひそかに、「ゆかしことのついでのはからいということ」にと、おん頼みいりはたされましたればこそ、なおし、やんごとなく、すなわち、未央たるべくはおろうばかりの、サンミヤクサンボーディ、すなわち、ひのものとくに、すなわち、正一履道場そのものに就いてでさえ、はれて、鎮座権現あそばせこれだけようはずのわけである。

舍利子。是クノ故ニ、當サニ、知ルベシ。般若波羅蜜多、大蜜咒トハ、是レ、大明咒ナリ。是レ、無上ノ咒タリ。是レ、無等タルニシテ等シナル咒ナリ。能ク、一切ノ、諸苦ヲ、除クノ咒ナルモ、眞実ニハ、無倒タリ。

【故ニ、知ルベシ。般若波羅蜜多ハ、是レ、秘密ノ咒タラント。】 即チ、般若波羅蜜多ヲ、咒ニト、説イテ、曰ワク。

さて、あなた、ほとけにおかせられては、そのような、悟性としての、ことがらの方から、しかも、介副あらせられて、しばらく、これ、啓祐仁、すなわち、「かんのん」なるべき、菩薩、すなわち、仁存人ご一代の、事に与らん、とこそあそばすべく、あえて、御恩慶という権能を通して、宣託これたまわすのであった。

善哉。善哉。善男子。是クノ如シ。是クノ如ク、汝ガ説ク所ノ如シ。彼、當サニ、是クノ如クニ、般若波羅蜜多ヲ、修學スベシ。一切ノ、如来モ、亦タ、隨喜シタモウラン。

あなかしこ。あなうれし。御宗家、ひみこよ。こういうふうにもおるべきとはいるのが、いわゆるところでなければならぬ。御宗子、ひみこよ、このようにはおるべきであったのも、また、かくいうところでなければならぬ。

すなわち、深層的ではあった、「ゆかしことのついでのはからいということ」に於てさえ、すべからく、行実性が、かの、本人を通して、歴上せねばならぬ。当然、あなたによって、批准これあるとしても、はたして、諸々の、すめらぎ、すなわち、如来、すなわち、救世主がたが、もはや、諸々の、慰恩者、すなわち、「やおよろず」がたとして、なおも、嘉せんところ、おわすであろうほかはない。

時ニ、薄伽梵。是クノ語ヲ、説キタモウテ已ナリキ。具壽、舍利子。聖者、觀自在菩薩、摩訶薩。一切ノ、世間。天・人・阿蘇羅・乾闥婆・等ハ、佛ノ、説キタマウ所ヲ、聞イテ、皆ナ、大歡喜シ、信受奉行セリ。

このようなことを通して、いよ、弁証あそばしたのも、すなわち、みほとけにはあられました。

まさに、祝福を寄せつづけます、寧康人、サーリプトラ、すなわち、優紹子その人、すなわち、かむい、すなわち、仁釀母【アールヤー】を背にしたる励導主、すなわち、「かんぜおん」は、はたして、菩薩、すなわち、仁在人として。それはともかく、また、誰もかれをも擁する、親眷層暈、すなわち、半ば、それ、神明たるべき、諸人智らという、非神格が幽調なるべくもあろうばかりの、「世間」こそが。いずれ、ほとけの方から、こ

れ、与かろうほどに、自叙なりませせてわたらせる御方ご一代を通し奉り、しきりに、おんまつらいもうしあげましたことではあった。

般若波羅蜜多心經

以上、南都小塔院住職河村俊英訳、漢訳法成本参照、
入唐八家之一慧雲師将来梵本参考翻訳、般若心經大本一卷、終。